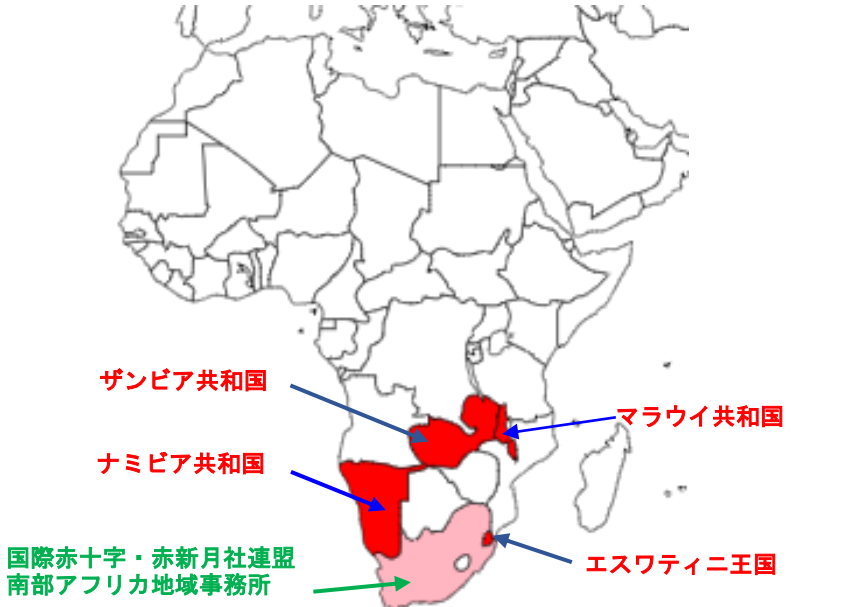


11. 南部アフリカ地域感染症対策事業

対象国・地域	エスワティニ王国、マラウイ共和国、ナミビア共和国、ザンビア共和国
事業概要 (経緯・背景)	日本赤十字社は、2003年から南部アフリカでエイズ孤児支援を行い、9カ国で保健・衛生、教育、生計支援、防災の面から包括的な支援を提供してきました。近年、気候変動に伴う洪水や干ばつが深刻化し、食料不足や学びの機会が奪われるなど、子どもたちに新たな課題が生じています。これを受けて、栄養改善として学校給食や学校農園の支援、干ばつに強い作物の栽培技術普及を推進しています。2024年度からは、ナミビアなど4カ国での複数年度支援を実施し、持続可能な成長を目指します。
事業期間	2024年4月1日～2027年3月31日
場所・対象	<ul style="list-style-type: none"> ・国際赤十字・赤新月社連盟南部アフリカ地域事務所 (在南アフリカ共和国) ・エスワティニ王国、マラウイ共和国、ナミビア共和国、ザンビア共和国  <p>The map shows the southern part of the African continent. Four countries are highlighted in red: Zambia (ザンビア共和国), Malawi (マラウイ共和国), Namibia (ナミビア共和国), and Eswatini (エスワティニ王国). A green arrow points to a location in South Africa labeled 'International Red Cross and Red Crescent Society Southern Africa Regional Office' (国際赤十字・赤新月社連盟南部アフリカ地域事務所).</p>
目標	エイズ孤児やその家族が、偏見や差別を乗り越え、気候変動の影響に対応しながら、健康で安定した生活を自ら築いていけるようになる。
成果	<p>成果1 基本的な保健サービスや地域保健の向上を通じた人びとの健康改善</p> <p>成果2 社会心理的支援の提供と、精神的な安定や社会的なつながりの促進</p> <p>成果3 農村地域での衛生や災害対策の整備を通じた健康リスクの軽減</p> <p>成果4 気候変動による災害や食料不安へのレジリエンス強化</p> <p>成果5 各国赤十字社の能力強化と事業の質と効率性の向上</p>
活動内容	<p>【エスワティニ】 シレレ・クリニックを基点として、女性と子どもを対象に、HIV /エイズ等の感染症や食料不安へのレジリエンス強化。診療所の運営、HIV等の検査・カウンセリング・治療、食料・生活用品の配布、家庭訪問と訪問看護、キッズクラブ(学童保育)の運営、啓発イベントの実施、学校での性教育</p> <p>【マラウイ】 地域保健、水と衛生、防災を統合した介入によるコミュニティのレジリエンス強化。コミュニティの保育所への支援(子どもへの昼食の提供を含む)、栄養教室の実施、中等教育過程にある生徒への奨学金制度、ユースクラブ・ガ</p>

	<p>ールズクラブの運営、家庭訪問と訪問看護</p> <p>【ナミビア】 HIV/エイズの影響を受けた孤児等への物資支援、基礎的な保健サービス支援、気候適応技術、および心理社会的支援（キッズ・クラブの運営）</p> <p>【ザンビア】 HIV/エイズの影響を受けた孤児等への物資支援、心理社会的支援、水と衛生、気候変動に関する情報へのアクセス改善を推進。ザンビア赤十字社職員及びボランティアへの感染症予防知識の研修の実施等</p>
事業費総額	23,500 千円（2024 年度）